

解説

米国公開企業会計監視委員会 「監査品質の指標に関する コンセプト・リリース」①

I はじめに

2015年7月1日に、米国公開企業会計監視委員会（PCAOB：Public Company Accounting Oversight Board）は、「監査品質の指標に関するコンセプト・リリース¹」（以下「コンセプト・リリース」という。）を公表した。コンセプト・リリースには、28個の「監査品質の指標（audit quality indicators）」の候補が記載され、その内容や利用方法についての73の具体的な質問事項とともにパブリック・コメントが募集されている²（コメント期限：2015年9月29日）。

本稿及び次稿の2回に分けて、コンセプト・リリースの主な内容について紹介する。第1回目の本稿では、コンセプト・リリースの本文の内容を、原文に従い、以下の区分に沿って紹介する。

1. 監査品質の指標に関するプロジェクトの概要

- (1) プロジェクトの目的と背景
 - (2) プロジェクトの課題
 - (3) 関連する他のプロジェクト
- #### 2. 監査品質の指標の候補
- #### 3. 監査品質の指標の利用方法
- (1) 監査品質の指標の利用者
 - (2) 監査品質の指標の作成及び利用者への提供の方法

(3) 適用対象（特定の条件に合致する監査事務所又は監査を適用対象外とするかどうか）

4. アウトリーチ活動：その他の団体による関連プロジェクトの調査
第2回目の次稿では、コンセプト・リリースの原文の付録（Appendix A）に記載されている28個の監査品質の指標の候補の個々の説明について紹介する予定である。本稿と次稿を併せて、参考にしていただきたい。

なお、本稿はコンセプト・リリースの原文を基礎として作成しているが、筆者による解釈が含まれることを申し添える。

II コンセプト・リリースの主な内容

1. 監査品質の指標に関するプロジェクトの概要

(1) プロジェクトの目的と背景

PCAOBの監査品質の指標に関するプロジェクトは、公開会社の監査品質を測定する定量的な指標を識別し、また、当該指標の最善の利用方法（誰が利用するか、公表するかどうか等）を検討するものである。プロジェクトの最終的な目的は、監査の利害関係者が、監査品質を適切に評価できるようにすることである。また、監査品質の指標の使用は、監査事務所間の品質に基づく競争も促進するかもしれない。

2008年に公表された、米国財務省監査プロフェッションに関する諮問委員会の最終報告³（以下「ACAP報告書」という。）において、PCAOBに対し、監査人・投資家・公開会社・監査委員会・取締役会・学会その他と協議の上、監査品質とその有効性を測定する主要な指標を開発し、監査事務所がこれらの指標を公開するよう義務付けることの実行可能性について検討することが提言された。ACAP報告書では、公開会社の監査市場における重要な課題は、監査事務所間の競争における差別化要因は何か、監査品質が最も重要な差別化要因となっているかどうかという点にあると記載している。また、現在、個々の監査事務所の監査品質の指標に関して公表される情報は最低限のものしかないこと、よって、監査委員会や経営者が、監査品質に重点を置いているか、監査品質の評価を有効に行うためのツールを有しているかを判断するのは難しいことを指摘している。

この監査品質に関する情報の欠如の問題は、監査の固有の性質から生じるものである。公開会社の財務諸表及びその監査報告書は公表され、監査人は、会社の監査委員会に対して監査の過程で識別した重要な事項のコミュニケーションを行うことを要求されてはいるが、これらは、監

査品質を評価し、監査が実際にどのように行われたかについての一面を表す情報でしかない。また、監査の成果物として観察可能なものは監査報告書しかないが、監査報告書の文言は標準化されており、監査品質を評価するのは難しい。

そこで、PCAOBは、本プロジェクトによって、監査品質を表し、関連する議論の促進材料となる指標を識別し、また、当該指標により生成されるデータを賢明かつ効果的に利用する方法を検討することで、監査の透明性の強化に寄与できると考えている。

PCAOBは、以下の3つの原則に基づき、監査品質の指標の候補を選定した。

- 監査品質の指標は、ほとんどの状況において主観的な判断のみであった事項に対して、算定アプローチに整合性をもたらし、客観性を与えることができるよう、可能な限り、定量的なものであるべき。
- 監査品質の指標は、利用者が、批判的な質問を行うことを可能にするデータを提供するものであるべき。
- 監査品質の指標は、監査品質の「バランスのとれたポートフォリオ (balanced portfolio)」として利用され、一体として機能するものであるべき。

(2) プロジェクトの課題

監査品質の指標は、監査品質の評価を行う際の1つのツールであり、認識すべき固有の限界が存在する。まず、監査品質の指標は、アルゴリズム、ベンチマーク、又は懲戒処分や訴訟に対するセーフ・ハーバーではなく、また、特定の監査の品質又は当該監査人が責務を果たしたかを

決定するための直接的な算式を提供するものではない。これは、監査品質の指標のデータの分析には、常にその背景を説明する情報が必要となるためである。監査品質の評価において、監査品質の指標が有する意味は、それぞれの状況により異なる。数値が異なる背景には合理的な説明が存在することがあり、また、その他の様々な要因（例えば、規制環境や会計基準）が特定の監査業務に影響を及ぼしていることもある。指標が定量的であることは、定性的な分析を排除するものではなく、むしろ定性的な分析が必要なことがほとんどである。加えて、監査品質を促進する要因のすべてが、直接容易に測定可能なわけではない。例えば、監査人の重要な特性である、職業的懐疑心や正当な注意が挙げられる。

監査品質の指標を利用する際の定性的な分析の必要性には、「比較可能性」の問題が関係している。例えば、監査委員会は、翌期の監査におけるパートナー、マネージャー及びスタッフの比率という数値だけでなく、他の監査業務における比率との比較、また、比率が類似する又は相違する理由を知りたいと思うだろう。たとえ同一の規模の会社であったとしても、監査上、同じ問題が生じるわけではない。共通の定義に基づく監査品質の指標が提供されたとしても、これらの質問への回答が提供されなければ、監査委員会が、当該指標に基づき評価できることは限られる。さらに、監査品質の指標はベンチマークではないため、監査業務の間で監査品質の指標が比較可能であったとしても、それらの監査品質が比較可能であるとは限らない。

監査業務又は監査事務所の間での

監査品質の指標を比較するためには、監査業務を比較可能とする要因は何か、また、監査業務又は監査事務所間の相違で重要なものは何かを理解する必要がある。業種の異なる会社の監査を比較することはできるのか？ 監査事務所によって、指標の測定の方法が異なる可能性もあるが、その場合、比較可能なのか？ これらの相違が、どのような場合に重要なのかを理解することが、本プロジェクトの課題の1つである。

(3) 関連する他のプロジェクト

監査品質の指標に関するプロジェクトは、PCAOBが行っている、以下の2つの他のプロジェクトと密接に関連している。これらは別箇のプロジェクトだが、いずれも、監査品質に影響する要因の分析・検討に注目したものである。

① 根本原因分析に関するプロジェクト

高品質の監査と不備のある監査の相違を生じさせる要因を識別するプロジェクトであり、監査事務所と連携して行っている。根本原因分析は、監査品質の指標の候補の選定に大きく影響を与えている。

② 品質管理基準の改訂に関するプロジェクト

監査事務所の品質管理システムの強化のため、PCAOBの品質管理基準の改訂の検討を行うプロジェクトである。検討項目には、監査事務所が、監査の不備が生じる前に問題を識別し解消するため、品質管理システム上において、監査品質の指標を含めどのような情報を監視すべきかが含まれている。

2. 監査品質の指標の候補

監査品質は、①監査が監査基準や関連する規則に準拠して行われてい

るかどうか、②監査人は投資家のニーズを満たしているかどうか、③監査が、特に監査委員会と一般投資家に対して、適時に有効な情報を提供しているかという複数の側面からとらえることができる。監査品質のこのような多面性は、監査品質の指標は、プロセスと結果に関連する、監査品質に影響を及ぼす様々な要因を反映するものでなければならないことを

示している。PCAOBは、監査品質の分析のための枠組みとして、①監査人、②監査プロセス、③監査結果の3つに分類して、監査品質の指標の候補を選定した。当初、指標の候補として約70個が識別されていたが、その中から、以下の28個の監査品質の指標の候補を選定している。PCAOBは、最終的には、監査品質の指標をより

少ない数に絞り込みたいと考えている。

下記の28個の指標のうち、(7)は監査業務レベルのみの測定、(13)、(14)、(26)は監査事務所レベルのみの測定、それ以外は、監査業務レベル及び監査事務所レベルの双方での測定を想定している。

監査人	(人的リソースの) 利用可能性 (availability)	(1) スタッフの比率
		(2) パートナーの作業負担
		(3) マネージャー及びスタッフの作業負担
		(4) 専門的な会計及び監査のリソース
		(5) 専門的な技能及び知識を有する者
	能力 (competence)	(6) 監査専門要員の経験
		(7) 監査専門要員の業種における経験
		(8) 監査専門要員の交代・離職
		(9) サービス・センターで行われる監査作業の量
		(10) 監査専門要員1人当たりの研修時間
	フォーカス	(11) 監査時間とリスク領域
(12) 監査の各段階における監査時間の配分		
監査プロセス	経営者の気風とリーダーシップ	(13) 監査専門要員に対する独立的な調査の結果
	動機	(14) 品質の評価と報酬・給与
	独立性	(15) 監査報酬、努力、クライアントのリスク
	インフラストラクチャー	(16) 独立性に関する要求事項の遵守
	監視及び改善	(17) 監査品質を支えるインフラストラクチャーに対する投資
		(18) 監査事務所による内部の品質管理レビューの結果
		(19) PCAOBによる検査の結果
監査結果	財務諸表	(20) 専門的能力のテスト
		(21) 虚偽表示による財務諸表の修正再表示の頻度と影響
		(22) 不正及びその他の財務報告の不祥事 (misconduct)
	内部統制	(23) 財務諸表の品質の測定指標を利用した監査品質の測定
	継続企業	(24) 内部統制の不備の適時な報告
	監査人と監査委員会の間のコミュニケーション	(25) 継続企業に関する問題の適時な報告
	執行及び訴訟	(26) 監査委員会メンバーに対する独立的な調査の結果
		(27) PCAOB及び米国証券取引委員会(SEC)による懲戒処分等
		(28) 民事訴訟の傾向

コンセプト・リリースの原文では、付録 (Appendix A) に、上記の28個の監査品質の指標の候補の個々の内容の説明が設けられている。冒頭に記載したとおり、付録の内容は、次稿において紹介させていただく。

3. 監査品質の指標の利用方法

監査品質の指標の決定は、最初のステップでしかない。監査品質の指標が監査の透明性を向上させ、監査品質の強化につながるためには、監査品質に影響を及ぼす利害関係者に

より、意思決定において利用される必要がある。監査品質の指標に関するプロジェクトは、利用者、データの入手・利用者への提供の方法、適用対象等をどうするかによって、将来において違った形をとり得る。

創業 1948



証券化不動産鑑定なら

森井総合鑑定

公正価値評価機関

J・SOX仕様 IFRS 準拠



<http://www.maic.jp>

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-8-3
TEL.03-5645-5733
〒530-0047 大阪府北区西天満2-6-8
TEL.06-6362-3303

(1) 監査品質の指標の利用者

PCAOBは、監査品質の指標の主

な利用者及び利用方法として、以下が想定できると考えている。

監査品質の指標の利用者	利用方法
監査委員会	<ul style="list-style-type: none"> 報告におけるリスク及び監査品質の評価 監査人の選任及び報酬の決定 監査人の監視
監査事務所	<ul style="list-style-type: none"> リスクの評価及び管理 品質管理に関する取組み及び監査品質の向上 監査の不備の根本原因の識別及び欠陥の改善
投資家	<ul style="list-style-type: none"> 報告上のリスクの評価 株主総会での議決権行使
PCAOB (及びその他の規制当局)	<ul style="list-style-type: none"> 施策決定における利用 根本原因分析及び品質管理プロジェクトでの利用 品質に対する議論や市場からの要求を促す

(2) 監査品質の指標の作成及び利用者への提供の方法

監査品質の指標の算出のためのデータの大部分は、監査事務所から提供されるものである。28個の監査品質の指標の候補のうち、19個は監査事務所が作成する情報であり、8個は公表ベースの情報、1個は監査委員会メンバーに対する調査によって得られる。監査品質の指標を理解するために必要な背景情報等も、一般的には監査事務所から提供される。これは、監査事務所が、監査事務所、特定の業種、特定の監査業務に関する情報の提供を行う最も適任な者であるためであるが、監査事務所以外の第三者も監査品質の指標に関連する情報の提供に関わることができるかもしれない。例えば、研究者やリサーチ会社は、財務諸表の修正再表示（訂正）の件数や程度等、公表情報から監査品質の指標に関するデータを集約・分析し、公表する役割を担えるかもしれない。また、規制当局は、情報開示に関する一定の制約はあるものの、監査品質の指標の分析や背景情報等の提供を行うこともできる。さらに被監査会社や監査委員会は、監査人から提示を受けた監

査業務レベルの監査品質の指標の一部を、財務報告に関する提出書類や株主に対する監査委員会からの報告に含めることができるかもしれない。

監査品質の指標の利用者への提供の方法としては、例えば、以下のような様々なアプローチがあり、複数の方法を組み合わせたり、段階的な導入を検討することもできるであろう。

- 監査事務所と監査チームに対し、監査業務レベル又は監査事務所レベルの監査品質の指標について、任意で、監査委員会と討議すること、又は公表することを奨励する。
- 監査チームに対し、監査品質の指標を監査委員会に提供することを義務付ける。
- 監査品質の指標を集計、統合したデータを継続的に算出し、監査事務所間の比較可能な一組の加重数値として公表する。
- 公表ベースの情報から、監査事務所ごとの監査品質の指標を算出し公表する。
- 監査事務所に対し、必要なデータをPCAOBに提出することを要求し、PCAOBが公表する、又は、監査事務所に対し直接公表するこ

とを要求する。

監査品質の指標の利用は、当初は任意で奨励し、監査事務所や監査チーム及び監査委員会での討議や利用経験に基づき、より有効な指標の開発に向けての学習期間とすることも一法である。そのような試行を経て、監査品質の指標の監査委員会への提示や一般公表の義務付けに移行することも考えられる。

(3) 適用対象（特定の条件に合致する監査事務所又は監査を適用対象外とするかどうか）

PCAOBは、適用対象に関連して、以下について検討する必要があると考えている。

➤ PCAOBに登録している監査事務所のすべてに対して適用すべきか？

共通の監査品質の指標により、小規模監査事務所が大規模監査事務所と品質において競争することを奨励する可能性があるが、監査事務所の規模を考慮した比較可能な指標が開発できるかどうかは1つの論点である。例えば、最初は大規模監査事務所のみに適用を限定する場合、監査事務所の規模の差をどのように考えるかについての検討の時間を得ることができる反面、適用除外となる監査事務所及びその公開会社クライアントは監査品質の指標から生じる便益を受けられず、また、市場に対し、監査事務所を監査品質ではなく規模で区別することを奨励する結果となってしまうおそれがある。

➤ 監査事務所が実施する公開会社の監査のすべてを対象として監査品質の指標を算定すべきか、又は、特定の業種の監査を監査品質の指標に関するプロジェクトの対象か

ら除外すべきか？

特定の業種の監査を監査品質の指標に関するプロジェクトから除外することを検討できるかもしれないが、その場合、当該業種の監査は他の業種の監査より重要性が低いという誤ったメッセージが伝わる可能性がある。例えば、将来には適用対象を拡大予定であることを明示した上で、最初のみ、一部の公開会社の監査のみに適用することは検討できるかもしれない。

4. アウトリーチ活動：その他の団体による関連プロジェクトの調査

PCAOBは、本プロジェクトを進めるに当たり、ACAP報告書の提言に従って、様々な利害関係者に対するアウトリーチ活動や対話を行ってきた。例えば、PCAOBは、2014年4月に開催された監査監督者機関国際フォーラム（IFIAR）会合において、監査品質の指標に関する議論の場を設けたが、その際、世界中の多くの監査規制当局が、監査品質の指標に類似するアイデアを計画、又は評価中であることが分かった。

また、PCAOBは、監査の透明性の強化による監査品質の向上に関連する、他の団体による取組みについても調査した。例えば、英国財務報告評議会（FRC）は、2008年2月に、監査人、監査委員会、財務諸表の作成者及び投資家等の利害関係者の間での監査品質に関する効果的なコミュニケーションを支援するため、「監査品質の枠組み」を公表した。また、国際監査・保証基準審議会（IAASB）は、2014年2月に、「監査品質の枠組み」を公表した。IAASBは、インプット、プロセス、アウトプットの3つに分類される監査品質に影響を及ぼす要因を、監査業務レベル、監

査事務所レベル、国レベルの三階層に体系化し、それぞれの要因を具体的な項目に展開している。IAASBの監査品質の枠組みの3つの分類は、本コンセプト・リリースが使用している、監査人、監査プロセス、監査結果という分類に類似し、また、IAASBが提示した要因の多くは、本コンセプト・リリースが提示した監査品質の指標の候補にも反映されるものである。しかしながら、IAASBの監査品質の枠組みは、本コンセプト・リリースと異なり、監査品質の要素を定量化することは想定していない。

その他、監査事務所の透明性や透明性と監査品質の関連について扱っている取組みとして、主に以下のものが挙げられる。

➤ 欧州委員会（EC）「法定監査指令」（2006年6月公布）

社会的影響度の高い事業体（PIE）の法定監査を実施する事務所に対する、年次透明性報告書の公表及びその記載内容に関する規定が含まれている⁴。

➤ 証券監督者国際機構（IOSCO）討議資料「公開会社の監査を実施する事務所の透明性」（2009年9月）

監査品質の評価や監査事務所間の競争の促進に役立つ可能性のある情報として、監査事務所のガバナンス、監査品質の指標、財務諸表に関する具体的な開示内容が提示されている。

➤ バーゼル銀行監督委員会「銀行の外部監査」（2014年3月）

外部監査人の監督及び外部監査人との関係に関する銀行の監査委員会の責任に関するガイドラインが設けられ、外部監査人の評価に

起業に最適

秘書サービス付き
スマートフォンオフィス

月々7万円台から。

会議室・応接室ほか

無料で使える充実の施設とサービス！



会議室・応接室



無線LAN



電話代行



受付サービス



宅配取次



リラックスルーム

全館完全LED化!
さらに経費削減!



内見の申し込み、お問い合わせは下記までお気軽にどうぞ。

池袋レンタルオフィス

池袋ホワイトハウスビル

池袋駅東口
徒歩3分

〒170-0013 豊島区東池袋1-20-2

Tel. **03-3982-6166**

初台(渋谷)レンタルオフィス

初台センタービル

初台駅
徒歩1分

〒151-0061 渋谷区初台1-51-1

Tel. **03-5350-2811**

<http://www.adachiweb.com/>

おける考慮事項として、透明性報告書や監査監督当局の検査結果報告書が挙げられている。

また、ここ数年、監査事務所自身の間でも、内部管理や外部へのコミュニケーションの目的で、監査品質の指標を自主的に利用する動きが高まっている。自主的に利用している監査事務所の中には、PCAOBと品質管理及び改善に関する取組みを行う過程で、監査品質の指標に関するデータや概念を、本コンセプト・リリースに記載したのと類似するものに変更した事務所もある。

III むすび

冒頭に記載したとおり、次稿では、コンセプト・リリースの原文に付録として記載されている、28個の監査品質の指標の候補の個々の説明を記載する予定である。本稿と併せて、お読みいただきたい。

(日本公認会計士協会研究員
甲斐幸子)

〈注〉

- 1 「コンセプト・リリース」とは、PCAOBが規則・基準設定プロセスにおいて公表するコンサルテーション・ペーパーに相当する。
- 2 コンセプト・リリースの原文は、PCAOBウェブサイトにて入手できる。
http://pcaobus.org/Rules/Rulemaking/Docket%20041/Release_2015_005.pdf
- 3 「U.S. Department of the Treasury, Final Report of the Advisory Committee on the Auditing Profession to the U.S. Department of the Treasury」。監査プロフェッショ

ンに係る3つの重要な分野（人的資源、事務所の構造及び資金調達、集中及び競争）について、31の提言が記載されている。「集中及び競争」に関する提言に、監査品質の指標に関する提言が含まれている。詳細は、『会計・監査ジャーナル』2009年3月号記事「米国財務省監査プロフェッションに関する諮問委員会の最終報告」（児嶋和美氏）参照。

- 4 2014年5月に関連法が最終公布された欧州法定監査制度改革によって、年次透明性報告書に関する規定は、PIEの法定監査に関する規則の第13条に移動・修正されている。